

# 令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・デジタル教科書の写真や動画を活用し実験器具や実験の方法を提示したことで、基礎的な理科学用語の理解が深まった。
- ・できるかぎり少人数で実験をさせたことで、一人一人が意欲的に取り組むことができた。

### (2) 課題

- ・基本的な理科学用語や知識の定着に差がある。説明を丁寧にしたり板書で用語を明確にしたりして定着させる必要がある。
- ・学習したことを生活場面に活用することに課題がある。具体的な生活経験や既習事項を想起させる働きかけを行っていく。
- ・生き物や植物の成長の観察では、年度当初から計画的に準備をする。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	・目標値に対して「知識・技能」は、1.3ポイント「思考・判断・表現」は、1.9ポイント下回った。		
第5学年	・目標値に対して「知識・技能」は、1.3ポイント「思考・判断・表現」は、1.9ポイント下回った。	・「知識・技能」は、1.6ポイント上回り、「思考・判断・表現」は、2.9ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は、1.1ポイント目標値を下回った。	
第6学年	・目標値に対して「知識・技能」は、7.2ポイント「思考・判断・表現」は、4.3ポイント下回った。	・「知識・技能」は、3.6ポイント、「思考・判断・表現」は、3ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は、1.1ポイント目標値を下回った。	・「知識・技能」は、4.5ポイント、「思考・判断・表現」は、7.4ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は、9.9ポイント目標値を下回った。

### (2) 分析（観点別）

#### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気の回路、観察の仕方、音はおおむね理解できている。</li> <li>・磁石の性質、ものの重さについての理解に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を明らかにして、予想を考えることに課題がある。</li> <li>・学習した知識をもとに文章や言葉で説明することに課題のある児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験することや観察することは意欲的にできる。</li> <li>・観察カードを書く際、理科の見方、考え方を意識して書くこと課題がある。</li> </ul>

#### ② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の植物の成長、1年間の動物のようすはおおむね理解できている。</li> <li>・受精、受粉、発芽についてはおおむね理解している。</li> <li>・電気のはたらき、物のあたためり方についての理解に課題がある。</li> <li>・学習用語とその用語の意味を関連付けて覚えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを丁寧にまとめることができる。</li> <li>・条件制御が必要な理由を理解せずに実験や観察に取り組む児童がいる。</li> <li>・結果をもとに考察することに課題がある児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・観察に対して意欲的に取り組む姿が見られる一方で、すすんで問題を見だし、見通しをもって自ら問題解決ができる児童は少ない。</li> </ul>

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>理科の重要用語は、目立つように板書し、ノートに確実に写させる。</li> <li>ICTを活用し、動画を何度も確認して、適切な実験技能を身に付けさせる。</li> <li>必要に応じて補充の問題やプリントを用意し、知識を定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事象について、どうしてそうなるのか予想させる。</li> <li>実験方法を考えさせる。</li> <li>実験結果から考察を書く際には、考える視点を提示する。</li> <li>自分の考えを絵やモデル図、理科の用語を使いながら説明したり、結果をまとめたりする活動を定期的に取り入れ、表現力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の関心を引き付けられる事象提示や発問を行い、自発的に問題発見ができるようにする。</li> <li>実験器具をなるべく多く用意し実験や観察を自分事として捉えられるようにする。</li> <li>観察カードを記入する際には、観点を示したり、何をどのように書けばよいのか分かるように適宜声かけしたりする。</li> </ul>

#### (2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>理科の重要用語は、目立つように板書し、ノートに確実に写させる。</li> <li>ICTを活用し、動画を何度も確認して、適切な実験技能を身に付けさせる。</li> <li>必要に応じて補充の問題やプリントを用意し、知識を定着させる。</li> <li>観察や実験の場面では、ICT機器を活用することで、観察・記録のポイントを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事象について、どうしてそうなるのか予想させる。</li> <li>実験方法を考えさせる。</li> <li>条件制御の方法を考えさせ、実験結果から考察を考えられるように指導する。</li> <li>学習課題に対する答えの書き方を指導するとともに、活用する機会を意図的に設定していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業では、問題解決の流れを意識させる。児童が疑問を抱いたり、関心をもったりすることができる導入、教師の発問の工夫をする。</li> <li>実験器具をなるべく多く用意したり、実験中に一人一人に役割を与えたりすることで、実験や観察を自分事として捉えられるようにさせる。</li> </ul>